



例会報告
「ペルセウス座流星群をみよう」
佐賀市 (2025.8.13)

梅雨を思わせるかの天気が続いていましたが、当日は見事な青空となってくれました。今回は「星空学習館&ひがさすコラボ企画」に少年団も参加しました。少年団の団員さんには会の前に集まっていたいただき、日程の説明を行いました。その後、星空学習館館長で少年団スタッフの副島先生より今日の星空の話を解説していただきました。まず、夜空にわかりやすく明るく輝いている三つの星、「夏の三角形」3つの星それぞれの名前、こと座のベガ、わし座のアルタイル、そしてはくちょう座のデネブの名前を確認しました。これは団員の子供たちも知っている人が多かったようです。こと座のベガとわし座のアルタイルは、七夕伝説でも登場する織姫と彦星のことです。1年に1日だけ会うことを許されているわけですが、実はお互いの距離は16光年、つまり光の速さで16年もかかるというわけですね。広大な宇宙の中ではわずかな距離となっているのですね。

また、ベガとアルタイルの間には天の川が存在します。天の川とは、実は私たちがいるこの銀河系そのものの姿なのです。2500億個の星々が集まった巨大な円盤状の集団（銀河系）を、私たちはその内側から見ていると言うわけですね。だから、無数の星の光が重なり合って、まるで光の川（雲上の光の帯）のように見えるのです。観測地のひがさす周辺には、光を出すものがほとんどなく、天の川を見ることができました。そしてこれには、ひがさすのスタッフの皆さんの知られざる努力もあったのです。公園周辺の街灯を全て消したり、ひがさす室内の非常灯の光を外に出さないように隠したりと工夫をされていたそうなのです。だから天の川まで見ることができたのですね。

宇宙空間には、私たちがいる銀河系のような銀河が2500億もあると言われています。それでは宇宙空間に星の数がいくつあるかというと、2500億×の2500億で6.25垓（がい）で10が22個も並んでしまうという数字だそうです。子供たちの中には、兆より大きい数の単位を無量大数まで言えた子がいました。すごい！

そんな話を聞いている中にも、流れ星が夜空を横切るときがありました。「流れたあ！」と歓声をあげる人もいれば、じっと願い事をお願いしていた人もいたのではないのでしょうか。副島さんが言うには、流れ星が流れきた方向がペルセウス座の方向であれば、ペルセウス座流星群のものであるそうです。当日ペルセウス座は20時過ぎに東から登ってきたようでした。流れ星は今回のような流星群に関連するもの以外にも見ることができます。そのような流れ星を散在流星と呼んでいるそうです。今年ペルセウス座では短時間に大量の流れ星が出現する。流星クラスターが発生したそうです。副島先生よりその映像をノートパソコンで見せていただきました。そんな現象も見られればいいなと期待をしていたところですが、21時過ぎ位からは雲が出始め星空が遮られてしまいました。予定通り21時半で星空観望会は終了です。貴重な夏休みの体験となったのではないのでしょうか。今日このよう機会を与えていただいたひがさすと星空学習館の方々に感謝申し上げます。

（参加者：25名 全体で約200名）



団員さんを含め約 200 名が集まりました



滝澤団長のあいさつ



ひがさす館長の副島さんより星空解説



流れ星を期待して・・・



夏の大三角



PC 画面でクラスター現象をみる



天の川が見えたよ



北斗七星